

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200593
法人名	株式会社シルバーケアサービス
事業所名	グループホームひまわり
所在地	愛媛県今治市八町西4丁目1番14号
自己評価作成日	平成23年9月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年9月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・平成14年9月の開設当初から、ホームの方針「柱」は変わっていない。家族介護を拠点に、家庭の温かさを大切に取り組んでいる。入居される方が、少しでも元気に、楽しく笑顔で過ごしていただけることがまず第一。その中で、自立支援、家族支援を並行して行っている。
「食事」「運動」「水分」「排泄」のテーマを重要視して日々の生活ケアに取り入れている。
「食事」・・・自家栽培の野菜や地元の新鮮な食材を使用して、毎日毎食手作りの食事を提供している。その過程は、利用者とともに作業している。
「運動」・・・体操、散歩、余暇活動など、日中適度な運動の習慣化を図っている。
「水分」・・・1日1500ccを目標とし、徹底してチェックしている。ジュースやゼリーなど工夫もしてできる限り多く摂取していただける工夫をしている。
「排泄」・・・排便対策として手作り野菜でジュースや調理を行ったり、運動、水分摂取に取り組んでいる。おむつから布パンツへ、可能性を追求しながらケアに当たっている。
・また、職員の教育・育成にも努力している。サービスの質向上には、職員の質の向上が必須。外部研修やホーム内研修を積極的に実施している。職員の意見も反映しながらホームの運営を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の看護師と法人の看護師で24時間対応できる体制を構築している。家族等からの看取り介護の希望は多く、看取り介護を視野に入れた医療連携を強化するため、来年4月より訪問看護を利用する予定である。生活面では「食事」「運動」「水分」「排泄」の4つを重要なポイントとしてケアに取り組んでおり、体操やレクリエーション、旅行等の余暇等、利用者の希望を大切にしながら、笑顔で過ごせるよう支援している。また、他の事業所との相互研修やキャリアアップシステムの整備なども検討し、前向きに職員の資質向上に取り組んでいる。自治会総会に出席を予定しており、地域と一緒に防災対策を話し合う等、相互協力を構築していくよう努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームひまわり

(ユニット名) ほほえみ

記入者(管理者)

氏 名 富田 陽子

評価完了日 平成23年9月1日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 法人の理念に基づき、各フロアで理念をつくり実践している。各フロア理念は職員間で話し合って作成したものである。理念の共有、意識付けについて、日々の申し送り時及びミーティング時に話し合っていく。	
			(外部評価) 全員で相談して各ユニット毎に「信頼とやさしさあふれる安心の日々 笑顔の暮らし」「絆を大切に、自分らしくできる事したい事をみつけよう」という理念を決めている。笑顔で自分らしく生活でき、安心した日々となるよう支援をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 暮らしの中で社会参加、地域の人々との交流の機会を多く確保している。例えば、地域の行事へ参加したり、喫茶店や買い物、日々の散歩など、出かけていく。また、毎年恒例の納涼祭をホームで開催したり、地域の学生や住民の介護研修、ボランティア研修等を受け入れている。	
			(外部評価) 行事のチラシを手渡しする等、地域の方と直接コミュニケーションを図ることにより、行事に参加してもらったり、散歩の時に声をかけてもらえる関係が構築されている。次回の自治会総会には参加する予定である。	利用者が地域の一員として生活して行くためには、日々の小さな交流の積み重ねが重要である。今後も創意工夫しながら住民の理解を得て、地域の中の事業所として位置づけられるような取組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の人々が気軽に相談に来てもらえるよう、法人がサロンを開いている。また、電話や訪問による相談も随時受けている。運営推進会議の議題の一つでもあり、地域の人々の認知症介護の理解と地域でのサポート体制がつかれるよう、広めていきたい。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議は、概ね2ヶ月に1度開催している。回を重ねるごとに率直な意見をいただけるようになってきている。平成23年2月より自治会長に参加していただけるようになった。	
			(外部評価) 市職員や自治会長、民生委員等の参加を得て、2か月に1回開催されている。事業所でのサービス内容や行事等の報告が行われ、意見や助言が出されている。	運営推進会議に家族も参加をしてもらったり、内容によって有識者に参加してもらう等、多角的な意見や助言がもらえるよう今後の工夫に期待したい。会議録については当日使用した資料を添付する等、記録として残していくよう希望したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市町村担当者とは随時電話や訪問により事業所の現状報告や相談を行っており、適宜適切な指導、助言をいただいている。担当者も協力的である。	
			(外部評価) 市の担当者は運営推進会議に出席してくれており、意見交換や情報提供が密にできる関係が構築されている。事業所からも積極的に連絡や連携を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 内部研修や外部研修に参加し、身体拘束についての知識を習得し、身体拘束をしないケアについて認識し、実践している。玄関や部屋は常に開放的にしている。	
			(外部評価) 夜間の施錠以外は開放している。2階は階段があり危険であるため外出傾向をよく把握し、身体拘束をしないケアに心がけている。会話や声かけも、気持ちを抑えつけたりすることがないように気をつけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 内部研修や外部研修に参加し、高齢者虐待防止法等についての知識を習得している。虐待の危険を早期に見つけ、関係機関と協働して速やかに対応していく。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 内部研修や外部研修に参加し、日常生活自立支援事業や成年後見制度についての知識を習得している。総合的な利用者支援に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 重要事項説明書や契約書、その他、具体的に説明を行い理解が得られるよう努めている。疑問点や不安なことについては、いつでも相談していただけるよう雰囲気づくり、関係づくりをしている。契約内容に変更が生じるときは、その都度、説明、同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会や運営推進会議で気軽に意見をいただけるようにしている。また、日頃より、面会や外出支援など家族の協力も多く、事業所からも電話などで密に連絡するなど、関係づくりに努め、率直な話ができる機会がもてている。 (外部評価) 家族会を年2回行ったり、季節の行事や旅行等を企画し家族にも参加をしてもらえるよう実施している。特に年2回の旅行には多くの家族が参加してくれ、職員や家族同志のコミュニケーションづくりの場ともなっており、リラックスした雰囲気、要望や意見を聞き出すことができている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 代表者や管理者は、利用者や職員の意向を重視して、より良いケアと健全な運営への思いを持っている。また、職員の自発的、積極的な職務遂行を非常に期待し、評価している。日々のコミュニケーションやミーティング等で、意見交換を行い、運営に活かしている。 (外部評価) 管理者は職員の意見や要望をできる限り取り入れ、運営に反映させ、働きやすく意見の言いやすい良好な職場環境を構築するよう努めている。職員は意欲的に仕事に取り組み、研修に参加したり資格の取得を意欲的に行う等している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、個々の就業状況を把握して評価している。人事考課による自己評価、企業評価を実施。就業環境の整備にも積極的な取り組みをしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 代表者は、個々の能力を把握しており、職員育成の重要性を認識している。内部研修の実施や外部研修に参加できる機会を確保している。職員間でも知識や技術を教え合いながら、互いを認め合ってより良いチームケア、業務遂行ができることを期待している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 愛媛県グループホーム連絡協議会に入会しており、研修会参加等で交流の機会がある。また、全国規模での研修へも可能な限り参加して、サービスの向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人に寄り添いながら、職員や他の利用者と良好な関係が築けるよう配慮している。家族とのつながりも大切にして、本人の思いや状況を支えていけるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ホームの方針を理解していただくだけでなく、思いや要望などをしっかり受けとめ、共に利用者の生活を支えていけるよう働きかけている。家族会も開催（年2回）し、家族間の交流も良好である。日頃から気軽に立ち寄っていただけるよう、連絡を密にして良好な関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 「その時」の必要な支援について、管理者や職員、必要に応じて法人内職員、他事業所や専門員らへ相談して対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の個性や能力の把握に努め、主体的な生活が送れるよう配慮している。共に家事などを行いながら、学び、支え合う関係がある。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日頃から家族と連絡を密にして、日々の生活状況や、健康状態などを伝えたり、支援の方法など、共に考え、必要時には協力していただける関係が築けている。遠方の方も定期的な面会や手紙、葉書などで交流ができています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人、知人、馴染みの方が気軽に面会に来られるよう、開放的で家庭的な雰囲気づくりに努めている。つながりの把握に努め、電話、手紙、行きたい場所などの希望に添えるよう対応している。 (外部評価) 家族が付き添って、馴染みの美容室を利用している利用者もいる。友人などが訪問してくれ楽しく談笑する利用者もありこれまで大切にしてきた馴染みの関係が保たれている。利用者や家族から利用前のことを聞き情報を得て関係が途切れないよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 共に支え合い笑顔あふれる生活ができるよう、職員や他の利用者と良好な関係づくりに配慮している。家事や余暇活動などをしながら、自然なコミュニケーションができています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了した場合は、必要に応じ、面会、相談など支援を行っている。関係者に対しての情報伝達も行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人や家族に直接聞いたり、生活の中でのコミュニケーションなどで、希望や意向の把握に努めている。	
			(外部評価) 毎日の生活の中で利用者から話を聞き、趣味や特技、できる事したい事を把握している。また。家族から情報を得よう心がけ、得た情報は職員全員で共有するため介護記録に記載している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族、関係者から、これまでの生活歴などを継続的に聞き、把握に努めて、本人や家族の理解、支援に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員は、研修等で利用者の支援方法のありかたを学び、総合的な支援ができる力が養えるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の要望や変化を把握し、チームでよく話し合っ て介護計画を作成している。毎月及び必要に応じ見直しを行い、より良いケアの実践へつなげている。 (外部評価) 日々の生活の中で、できる事やしたい事を見極めて目標を定め、利用者や家族の思いや意向を聞き取り、介護計画を立てている。定期的にモニタリングや見直しも実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子などの把握に努め、個別記録をしている。職員は、申し送りの必要性を理解し、情報の共有を図っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 社会資源の把握に努め、必要性に応じ、柔軟な支援に努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議のメンバーには地域の民生委員や市の職員、自治会長がおり、相談などの協力が得られる。ボランティア劇団にも定期的に公演を依頼している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) これまでのかかりつけ医に必要な医療支援を継続して 受けている。必要に応じ、他の医療機関や専門医の情 報を提供して、適切な医療が受けられるよう支援して いる。 (外部評価) 定期的な受診は、家族に付き添いをしてもらってい る。受診の際に必要な情報等は家族に伝え、受診結果 についても報告してもらっている。緊急の場合等は事 業所の看護師が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員と看護職員、また、必要に応じ法人内看護職 に相談、助言が得られる体制である。日々の健康管理 はもちろん、状態の変化や異常には十分に注意して早 期対応ができるよう努めている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には家族の協力を得ながら、面会して不安の軽 減に努めている。早期の退院がスムーズにできるよ う、病院関係者や本人・家族と話し合いをもち、積極 的な支援に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化及び終末期の支援の方針を、本人、家族、関係 者らと話し合っている。状況の変化に応じ、納得のい く適切な対応ができるよう、よく話し合っすめて いく。医療連携について、運営推進会議で意見交換を 行い、体制の見直しを実施している。 (外部評価) 現在は看取り介護は行っていないが、重度化や看取り の指針を作成しており入所時に説明し同意をもらって いる。今後医療との連携を強化するため、訪問看護の 派遣をしよう予定している。	運営推進会議等でも看取りについての意見が出される 等、事業所に期待を寄せている利用者や家族もいるこ とから、予定されている訪問看護の導入に合わせ職員 の資質の向上に努める等、利用者が安心して生活でき るよう、さらなる取り組みに期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員は消防署の応急手当講習を受けて、実践力を身につけている。A E Dを設置しており、全職員が使用法を学習している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防訓練を年2回行っている。運営推進会議で災害対策について話し合っている。運営推進会議を活用して、地域連携に関するビデオを視聴、意見交換を行うなどして隣近所の住民の方々にも、緊急時には協力が得られるよう、体制を整えていく。 (外部評価) 夜間を想定して避難経路や避難時間をチェックしながら訓練を行っている。緊急連絡網を事業所に近い職員順に作り直したり、A E Dを設置して職員全員が使用できるように講習を受ける等緊急時に備えている。今後は風水害や地震等の対応を地域ぐるみで行えるよう検討していく予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 雇用契約時には秘密保持についての誓約書を交わしている。研修等でプライバシーの確保について学ぶ機会をもっている。全職員が、その必要で嫌具体的なことについて共通認識して就業できるよう、勉強会をしていきたい。 (外部評価) 職員は、周りに気付かれないようトイレへの誘導をさりげなく行っている。声かけや介助も利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないような配慮が見られる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定の場面は沢山あるので、本人が決められるようその人その人にあつた必要な支援を行っている。希望や願いを意図的に引き出せるよう関わっていく。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日頃のコミュニケーションなどから希望や要望を把握して、一人一人のペースや望みを重視した柔軟な支援に努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行きつけや希望の美容室へ行けるよう支援している。お出かけの際はおしゃれができるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事は全て手作りである。農園で野菜などを作って栽培している。地元の食材、旬のものを沢山使った料理をバランスに配慮して作っている。下ごしらえなどできることは一緒に行っている。片付けも一緒に行っている。職員も一緒に食事をしている。 (外部評価) 法人の管理栄養士が献立を立てている。法人の畑で採れた野菜や市場から仕入れた新鮮な魚を使用し、バランスの良い食事を提供している。後片付け等は無理のない程度に利用者にも手伝ってもらっている。職員も一緒に食卓を囲み、利用者と一緒に楽しく食事ができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 好みや習慣を把握し、十分な水分摂取ができるよう摂取量をチェックして職員全員で気をつけている。バランスのよい食事の提供には十分配慮している。好き嫌いなど、偏食がある場合は、違った形で摂取できるよう方法を検討して対応している。健康管理と共に、状況に応じ主治医にも対応策を相談している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを実施している。義歯は每晚洗浄消毒している。食前の口腔体操を行っている。個別に、必要な場合は、専門医に受診し、適切な処置や指導を受けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄がトイレでスムーズにできるよう、排泄パターンや力の把握に努め、「おむつ0ゼロ」を目標に個々の状態に合わせたケアを実施している。おむつやパットの使用は最小限にしている。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握し、紙パンツやパット等を用いて利用者それぞれに応じた声かけや介助を行いながら自立した排泄に向けて支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 適度な運動、水分の摂取、食物繊維の多い食事など予防・対応に努めている。必要に応じ、主治医に相談して指示や処方を受けている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴をしている。時間帯は夕方であるが、希望や状況に応じ柔軟に対応ができるようにしている。	
			(外部評価) 希望によりほぼ毎日入浴している。必要な場所に手すりを設置し安全に配慮している。車いすを使用している利用者也職員が介助して入浴しており、利用者一人ひとりに応じた入浴支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間しっかり安眠できるよう、日中の活動を重視している。生活リズムを整え、個々のペースで過ごせるよう配慮している。体調などにも留意して、必要な休息がとれるように気をつけている。	
			(外部評価)	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 日々の健康管理と主治医との連携を密にし、処方されたものは処方箋等で、目的、副作用、用法、用量などを十分理解して、確認を慎重にしながら服薬管理をしている。必要に応じ、主治医へ状況を連絡して、治療や服薬調整を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴や希望などを把握し、日々の余暇活動で楽しみや生きがいを感じられるよう支援している。家族とお出かけするなど、外出や外泊も自由にできる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 地域の行事や買い物、季節のお出かけなど、楽しみながら過ごせるよう支援している。家族とドライブやお出かけなどもよく行かれている。	
			(外部評価) 利用者の希望によってコースを定めず気ままに歩く散歩が日課となっており、気分転換と体力づくりの機会となっている。年2回の旅行や家族会を兼ねて外出したり、地域の行事に参加する等、職員は外出の支援を積極的に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個々の希望や力に応じて支援している。お小遣いとして預かっているお金の管理状況を、定期的に家族や本人に伝えて、合意を得ている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙など、本人の希望や力に応じた支援を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 段差のないバリアフリー構造である。室温は、床暖房、空調設備を設置し、体調面へ配慮しながら調整している。生活の音や炊事の香り、絵画や工作物、テーブルの上には季節の花など、季節や五感に刺激のある環境を作っている。 (外部評価) 居間は大きな窓から自然の光が差し込み明るい。タオルで防災頭巾を縫ったり、ひもに名前を書く等、利用者が思い思いの事をしながらゆったりと過ごしている。以前は背を向けて調理をしていたキッチンを対面式に改修して、利用者と話しながら調理をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食卓の間、ソファの間、畳の間など、ゆったりと過ごせるスペースがある。庭にも自由にできることができ、ベンチをおいている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室は、家族に依頼し、自宅で使っていたもので馴染みのモノをもってきていただき、過ごしやすく居心地のよい部屋をつくっていただいている。 (外部評価) 居室には木製のベッドと収納スペースがあり、事業所の備品の木製のテーブルやいすも、居室で使うことができる。ベッドの側に畳を敷いている居室もある。利用者が落ち着いて過ごせるように、居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 個々の状況把握に努め、不安や混乱なく安心して過ごせる環境作りに常に配慮している。必要に応じ、家族や専門員と相談して対応する。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200593
法人名	株式会社シルバーケアサービス
事業所名	グループホームひまわり
所在地	愛媛県今治市八町西4丁目1番14号
自己評価作成日	平成23年9月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年9月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・平成14年9月の開設当初から、ホームの方針「柱」は変わっていない。家族介護を拠点に、家庭の温かさを大切に取り組んでいる。入居される方が、少しでも元気に、楽しく笑顔で過ごしていただけることがまず第一。その中で、自立支援、家族支援を並行して行っている。
「食事」「運動」「水分」「排泄」のテーマを重要視して日々の生活ケアに取り入れている。
「食事」・自家栽培の野菜や地元の新鮮な食材を使用して、毎日毎食手作りの食事を提供している。その過程は、利用者とともに作業している。
「運動」・体操、散歩、余暇活動など、日中適度な運動の習慣化を図っている。
「水分」・1日1500ccを目標とし、徹底してチェックしている。ジュースやゼリーなど工夫もしてできる限り多く摂取していただける工夫をしている。
「排泄」・排便対策として手作り野菜でジュースや調理を行ったり、運動、水分摂取に取り組んでいる。おむつから布パンツへ、可能性を追求しながらケアに当たっている。
・また、職員の教育・育成にも努力している。サービスの質向上には、職員の質の向上が必須。外部研修やホーム内研修を積極的に実施している。職員の意見も反映しながらホームの運営を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の看護師と法人の看護師で24時間対応できる体制を構築している。家族等からの看取り介護の希望は多く、看取り介護を視野に入れた医療連携を強化するため、来年4月より訪問看護を利用する予定である。生活面では「食事」「運動」「水分」「排泄」の4つを重要なポイントとしてケアに取り組んでおり、体操やレクリエーション、旅行等の余暇等、利用者の希望を大切にしながら、笑顔で過ごせるよう支援している。また、他の事業所との相互研修やキャリアアップシステムの整備なども検討し、前向きに職員の資質向上に取り組んでいる。自治会総会に出席を予定しており、地域と一緒に防災対策を話し合う等、相互協力を構築していくよう努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームひまわり

(ユニット名) ゆめ

記入者(管理者)

氏 名 富田 陽子

評価完了日 平成23年9月1日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 法人の理念に基づき、各フロアで理念を職員間で話し合ってつくり実践している。理念の共有、意識付けについて、日々の申し送り時及びミーティング時に話し合っていく。 (外部評価) 全員で相談して各ユニット毎に「信頼とやさしさあふれる安心の日々 笑顔の暮らし」「絆を大切に、自分らしくできる事したい事をみつけよう」という理念を決めている。笑顔で自分らしく生活でき、安心した日々となるよう支援をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 暮らしの中で社会参加、地域の人々との交流の機会を多く確保している。例えば、地域の行事（夏祭り、運動会、カルチャセンター行事など）へ参加したり、散歩を兼ね公園やお寺に出かけたり、近所の美容院を利用している。ホームの納涼祭の案内を配り、誘い合って参加してくださっている。学生や住民の介護研修、ボランティア研修等を受け入れている。 (外部評価) 行事のチラシを手渡しする等、地域の方と直接コミュニケーションを図ることにより、行事に参加してもらったり、散歩の時に声をかけてもらえる関係が構築されている。次回の自治会総会には参加する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の人々が気軽に相談に来てもらえるよう、法人がサロンを開いている。また、電話や訪問による相談も随時受けている。運営推進会議の議題の一つでもあり、地域の人々の認知症介護の理解と地域でのサポート体制がつかれるよう、広めていきたい。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議は、概ね2ヶ月に1度開催している。回を重ねるごとに率直な意見をいただけるようになってきている。平成23年2月より自治会長に参加していただけるようになった。参加者を増やせるよう、開催日程や時間を工夫していきたい。 (外部評価) 市職員や自治会長、民生委員等の参加を得て、2か月に1回開催されている。事業所でのサービス内容や行事等の報告が行われ、意見や助言が出されている。	運営推進会議に家族も参加をしてもらったり、内容によって有識者に参加してもらう等、多角的な意見や助言がもらえるよう今後の工夫に期待したい。会議録については当日使用した資料を添付する等、記録として残していくよう希望したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市町村担当者とは随時電話や訪問により事業所の現状報告や相談を行っており、適宜適切な指導、助言をいただいている。担当者も協力的である。 (外部評価) 市の担当者は運営推進会議に出席してくれており、意見交換や情報提供が密にできる関係が構築されている。事業所からも積極的に連絡や連携を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 内部研修や外部研修に参加し、身体拘束についての知識を習得し、身体拘束をしないケアについて認識し、実践している。玄関や部屋は常に開放的にしている。2階は特に階段があるため、職員はさりげなく注意を払い、安全の確保に努めている。 (外部評価) 夜間の施錠以外は開放している。2階は階段があり危険であるため外出傾向をよく把握し、身体拘束をしないケアに心がけている。会話や声かけも、気持ちを抑えつけたりすることがないように気をつけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 内部研修や外部研修に参加し、高齢者虐待防止法等についての知識を習得している。虐待の危険を早期に見つけ、関係機関と協働して速やかに対応していく。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 内部研修や外部研修に参加し、日常生活自立支援事業や成年後見制度についての知識を習得している。総合的な利用者支援に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 重要事項説明書や契約書、その他、具体的に説明を行い理解が得られるよう努めている。疑問点や不安なことについては、いつでも相談していただけるよう雰囲気づくり、関係づくりをしている。契約内容に変更が生じるときは、その都度、説明、同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会や運営推進会議で気軽に意見をいただけるようにしている。また、日頃より、面会や外出支援など家族の協力も多く、事業所からも電話などで密に連絡するなど、関係づくりに努め、率直な話ができる機会がもてている。 (外部評価) 家族会を年2回行ったり、季節の行事や旅行等を企画し家族にも参加をしてもらえよう実施している。特に年2回の旅行には多くの家族が参加してくれ、職員や家族同志のコミュニケーションづくりの場ともなっており、リラックスした雰囲気、要望や意見を聞き出すことができています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 代表者や管理者は、利用者や職員の意向を重視して、より良いケアと健全な運営への思いを持っている。また、職員の自発的、積極的な職務遂行を非常に期待し、評価している。経営・運営検討会議を定期的に行い、情報や意見の交換を行い、運営に活かしている。 (外部評価) 管理者は職員の意見や要望をできる限り取り入れ、運営に反映させ、働きやすく意見の言いやすい良好な職場環境を構築するよう努めている。職員は意欲的に仕事に取り組み、研修に参加したり資格の取得を意欲的に行う等している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、個々の就業状況を把握して評価している。人事考課による自己評価、企業評価を実施。就業環境の整備にも積極的な取り組みをしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 代表者は、個々の能力を把握しており、職員育成の重要性を認識している。内部研修の実施や外部研修に参加できる機会を確保している。職員間でも知識や技術を教え合いながら、互いを認め合ってより良いチームケア、業務遂行ができることを期待している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 愛媛県グループホーム連絡協議会に入会しており、研修会参加等で交流の機会がある。また、全国規模での研修へも可能な限り参加して、サービスの向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人に寄り添いながら、職員や他の利用者と良好な関係が築けるよう配慮している。家族とのつながりも大切にして、本人の思いや状況を支えていけるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ホームの方針を理解していただくだけでなく、思いや要望などをしっかり受けとめ、共に利用者の生活を支えていけるよう働きかけている。家族会も開催（年2回）し、家族間の交流も良好である。日頃から気軽に立ち寄っていただけるよう、連絡を密にして良好な関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 「その時」の必要な支援について、管理者や職員、必要に応じて法人内職員、他事業所や専門員らへ相談して対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の個性や能力の把握に努め、主体的な生活が送れるよう配慮している。共に家事などを行いながら、学び、支え合う関係がある。今出来ることを支援し、絆を大切にしたいと考えている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日頃から家族と連絡を密にして、日々の生活状況や、健康状態などを伝えたり、支援の方法など、共に考え、必要時には協力していただける関係が築けている。遠方の方も定期的な面会や手紙、葉書などで交流ができています。ご家族の気持ちや思い、お話を聴くことで少しずつ安心され、家族関係も自然になってきている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人、知人、馴染みの方が気軽に面会に来られるよう、開放的で家庭的な雰囲気づくりに努めている。つながりの把握に努め、電話、手紙、行きたい場所などの希望に添えるよう対応している。面会者も一緒にレクリエーションや体操に参加されることもある。 (外部評価) 家族が付き添って、馴染みの美容室を利用している利用者もいる。友人などが訪問してくれ楽しく談笑する利用者もありこれまで大切にしてきた馴染みの関係が保たれている。利用者や家族から利用前のことを聞き情報を得て関係が途切れないよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 共に支え合い笑顔あふれる生活ができるよう、職員や他の利用者と良好な関係づくりに配慮している。得意なことは積極的に関わっていただいている。家事や余暇活動などをしながら、自然なコミュニケーションができています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了した場合は、必要に応じ、面会、相談など支援を行っている。関係者に対しての情報伝達も行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者がその人らしく暮らしていけるよう一人一人の思いや希望を、本人や家族に直接聞いたり、生活の中でのコミュニケーションなどで、把握に努め、サポートできるよう職員間で話し合っている。	
			(外部評価) 毎日の生活の中で利用者から話を聞き、趣味や特技、できる事したい事を把握している。また。家族から情報を得よう心がけ、得た情報は職員全員で共有するため介護記録に記載している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族、関係者から、これまでの生活歴などを継続的に聞き、把握に努めて、本人や家族の理解、支援に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員は、研修等で利用者の支援方法のありかたを学び、総合的な支援ができる力が養えるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月2回のミーティングで、本人や家族の要望や変化を把握し、チームでよく話し合っ介護計画を作成している。毎月及び必要に応じ見直しを行い、より良いケアの実践へつなげている。 (外部評価) 日々の生活の中で、できる事やしたい事を見極めて目標を定め、利用者や家族の思いや意向を聞き取り、介護計画を立てている。定期的にモニタリングや見直しも実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子などの把握に努め、個別記録をしている。職員は、申し送りの必要性を理解し、情報の共有を図っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 社会資源の把握に努め、必要性に応じ、柔軟な支援に努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議のメンバーには地域の民生委員や市の職員、自治会長がおり、相談などの協力が得られる。ボランティア劇団にも定期的に公演を依頼している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) これまでのかかりつけ医に必要な医療支援を継続して 受けている。必要に応じ、他の医療機関や専門医の情 報を提供して、適切な医療が受けられるよう支援して いる。 (外部評価) 定期的な受診は、家族に付き添いをしてもらってい る。受診の際に必要な情報等は家族に伝え、受診結果 についても報告してもらっている。緊急の場合等は事 業所の看護師が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員と看護職員、また、必要に応じ法人内看護職 に相談、助言が得られる体制である。日々の健康管理 はもちろん、状態の変化や異常には十分に注意して早 期対応ができるよう努めている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には家族の協力を得ながら、面会して不安の軽 減に努めている。早期の退院がスムーズにできるよ う、病院関係者や本人・家族と話し合いをもち、積極 的な支援に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化及び終末期の支援の方針を、本人、家族、関係 者らと話し合っている。状況の変化に応じ、納得のい く適切な対応ができるよう、よく話し合っすすめて いく。医療連携について、運営推進会議で意見交換を 行い、体制の見直しを実施している。 (外部評価) 現在は看取り介護は行っていないが、重度化や看取り の指針を作成しており入所時に説明し同意をもらって いる。今後医療との連携を強化するため、訪問看護の 派遣をしてもらうよう予定している。	運営推進会議等でも看取りについての意見が出される 等、事業所に期待を寄せている利用者や家族もいるこ とから、予定されている訪問看護の導入に合わせ職員 の資質の向上に努める等、利用者が安心して生活でき るよう、さらなる取り組みに期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員は消防署の応急手当講習を受けて、実践力を身に付けている。A E Dを設置しており、全職員が使用法を学習している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防訓練を年2回行っている。運営推進会議で災害対策について話し合っている。運営推進会議を活用して、地域連携に関するビデオを視聴、意見交換を行うなどして隣近所の住民の方々にも、緊急時には協力が得られるよう、体制を整えていく。 (外部評価) 夜間を想定して避難経路や避難時間をチェックしながら訓練を行っている。緊急連絡網を事業所に近い職員順に作り直したり、A E Dを設置して職員全員が使用できるように講習を受ける等緊急時に備えている。今後は風水害や地震等の対応を地域ぐるみで行えるよう検討していく予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 雇用契約時には秘密保持についての誓約書を交わしている。研修等でプライバシーの確保について学ぶ機会をもっている。全職員が、その必要で嫌具体的なことについて共通認識して就業できるよう、勉強会をしていきたい。 (外部評価) 職員は、周りに気付かれないようトイレへの誘導をさりげなく行っている。声かけや介助も利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないような配慮が見られる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定の場面は沢山あるので、本人が決められるようその人その人にあつた必要な支援を行っている。希望や願いを意図的に引き出せるよう関わっていく。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日頃のコミュニケーションなどから希望や要望を把握して、一人一人のペースや望みを重視した柔軟な支援に努めている。受容的な関わりを持つよう心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行きつけや希望の美容室へ行けるよう支援している。お出かけの際はおしゃれができるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事は全て手作りである。農園で野菜などを作って栽培している。地元の食材、旬のものを沢山使った料理をバランスに配慮して作っている。下ごしらえなどできることは一緒に行っている。片付けも一緒に行っている。職員も一緒に食事をしている。 (外部評価) 法人の管理栄養士が献立を立てている。法人の畑で採れた野菜や市場から仕入れた新鮮な魚を使用し、バランスの良い食事を提供している。後片付け等は無理のない程度に利用者にも手伝ってもらっている。職員も一緒に食卓を囲み、利用者と一緒に楽しく食事ができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 好みや習慣を把握し、十分な水分摂取ができるよう摂取量をチェックして職員全員で気をつけている。バランスのよい食事の提供には十分配慮している。好き嫌いなど、偏食がある場合は、違った形で摂取できるよう方法を検討して対応している。健康管理と共に、状況に応じ主治医にも対応策を相談している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを実施している。義歯は每晚洗浄消毒している。食前の口腔体操を行っている。個別に、必要な場合は、専門医に受診し、適切な処置や指導を受けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄がトイレでスムーズにできるよう、排泄パターンや力の把握に努め、「おむつ0ゼロ」を目標に個々の状態に合わせたケアを実施している。おむつやパットの使用は最小限にしている。 (外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握し、紙パンツやパット等を用いて利用者それぞれに応じた声かけや介助を行いながら自立した排泄に向けて支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 適度な運動、水分の摂取、食物繊維の多い食事など予防・対応に努めている。必要に応じ、主治医に相談して指示や処方を受けている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴をしている。時間帯は夕方であるが、希望や状況に応じ柔軟に対応ができるようにしている。家庭用ユニットバスでの個人浴であり、職員と利用者のより良いコミュニケーションの場になっている。 (外部評価) 希望によりほぼ毎日入浴している。必要な場所に手すりを設置し安全に配慮している。車いすを使用している利用者也職員が介助して入浴しており、利用者一人ひとりに応じた入浴支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間しっかり安眠できるよう、日中の活動を重視している。生活リズムを整え、個々のペースで過ごせるよう配慮している。体調などにも留意して、必要な休息がとれるように気をつけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 日々の健康管理と主治医との連携を密にし、処方されたものは処方箋等で、目的、副作用、用法、用量などを十分理解して、確認を慎重にしながら服薬管理をしている。必要に応じ、主治医へ状況を連絡して、治療や服薬調整を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴や希望などを把握し、日々の余暇活動で楽しみや生きがいを感じられるよう支援している。家族とお出かけするなど、外出や外泊も自由にできる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 地域の行事や買い物、季節のお出かけなど、楽しみながら過ごせるよう支援している。家族とドライブやお出かけなどもよく行かれている。	
			(外部評価) 利用者の希望によってコースを定めず気ままに歩く散歩が日課となっており、気分転換と体力づくりの機会となっている。年2回の旅行や家族会を兼ねて外出したり、地域の行事に参加する等、職員は外出の支援を積極的に行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個々の希望や力に応じて支援している。お小遣いとして預かっているお金の管理状況を、定期的に家族や本人に伝えて、合意を得ている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙など、本人の希望や力に応じた支援を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 段差のないバリアフリー構造である。室温は、床暖房、空調設備を設置し、体調面へ配慮しながら調整している。生活の音や炊事の香り、絵画や工作物、テーブルの上には季節の花など、季節や五感に刺激のある環境を作っている。季節のテーマを一緒に考え壁画を作成している。 (外部評価) 居間は大きな窓から自然の光が差し込み明るい。タオルで防災頭巾を縫ったり、ひもに名前を書く等、利用者が思い思いの事をしながらゆったりと過ごしている。以前は背を向けて調理をしていたキッチンを対面式に改修して、利用者と話しながら調理をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食卓の間、ソファの間、畳の間など、ゆったりと過ごせるスペースがある。ベランダに鉢植えした花の観賞や水やりを楽しむことができる。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室は、家族に依頼し、自宅で使っていたもので馴染みのモノをもってきていただき、過ごしやすく居心地のよい部屋をつくっていただいている。 (外部評価) 居室には木製のベッドと収納スペースがあり、事業所の備品の木製のテーブルやいすも、居室で使うことができる。ベッドの側に畳を敷いている居室もある。利用者が落ち着いて過ごせるように、居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 個々の状況把握に努め、不安や混乱なく安心して過ごせる環境作りに常に配慮している。必要に応じ、家族や専門員と相談して対応する。	